

(27) 藻類養殖指導

予算

運営費交付金

結果の概要

藻類の養殖期間に合わせ、2015年11月から2016年3月に測定した漁場の表層塩分(表1)は、12月の西鳥取を除き30を下回ることにはなかった。リン(DIP)は、1月以降にノリ色落ち警戒濃度を下回る地区がみられるようになったが、ワカメの警戒濃度を下回ることにはなかった(表2)。窒素(DIN)は、11月よりノリ色落ち警戒濃度を下回る地区がみられたが、ワカメ警戒濃度を下回ることにはなかった(表3)。

ノリの育苗は10月23日から開始され、冷凍入庫は11月14~16日に行われた。育苗中のノリ芽は比較的良好な状態であった。11月28日から養殖が開始され、12月4日から単張りへ移行した。生産は12月下旬に一部で摘採が行われたものの、生理障害による細胞損傷やあかぐされ病が発生したため、主力の生産開始は1月上旬から、生産の本格化は1月中旬となった。3月上旬には栄養塩の低下に伴う色調の低下がみられた。生産の遅れや病症害のため、生産枚数は平成26年度の60%まで減少した(表4)。

ワカメ養殖の開始時期は、他県産種糸、自家採苗種糸とも生長が不調となったため、通常より遅い11月下旬~12月上旬となった。養殖開始後には食害、葉体流失、及び生長不良などもみられ、生産が遅れた。

気温・水温、降雨量、栄養塩測定結果、赤潮発生状況及び養殖概況をとりまとめ藻類養殖情報として11月~3月に5回発表した。

調査方法

1. 調査点

泉南市岡田浦、阪南市尾崎、西鳥取、下荘、岬町谷川の5点

2. 調査期間と実施日

2015年11月から2016年3月

巡回指導実施日：11月4日、12月8日、

1月5日、2月1日、3月1日

3. 調査項目

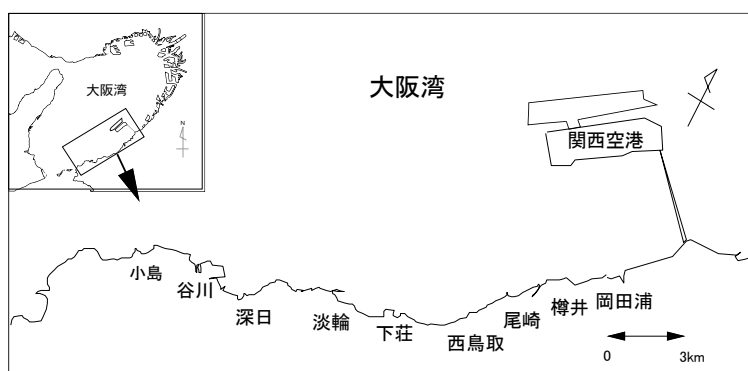


図1 調査点

各養殖漁場で採取した表層海水の塩分、溶存態無機リン（DIP）、溶存態無機窒素（DIN）の測定ノリの養殖概況の把握

調査結果

表1～4のとおり。

担当者

鍋島靖信、佐野雅基、田中咲絵（栄養塩分析）

表1 漁場の表層塩分

(psu)					
月	岡田浦	尾崎	西鳥取	下荘	谷川
11	31.70	31.71	31.79	31.75	32.62
12	31.71	31.83	32.02	32.18	32.62
1	31.41	31.47	29.78	31.32	32.19
2	31.72	30.75	31.62	30.05	32.50
3	30.77	30.79	31.77	31.99	32.22

表2 漁場のDIP

(μ mol/l)					
月	岡田浦	尾崎	西鳥取	下荘	谷川
11	0.90	0.85	0.78	1.00	0.50
12	0.81	0.68	0.77	0.68	0.59
1	0.25	0.20	1.84	0.60	0.28
2	0.33	0.36	0.13	0.76	0.27
3	0.51	0.33	0.30	0.52	0.32

※ 2月の西鳥取は岸から採水したため、異常値とする。

表3 漁場のDIN

(μ mol/l)					
月	岡田浦	尾崎	西鳥取	下荘	谷川
11	12.06	9.60	8.98	12.52	4.51
12	15.46	11.39	11.60	8.91	7.18
1	3.37	3.66	32.92	6.66	3.15
2	4.65	6.87	2.26	12.33	3.59
3	9.71	6.23	3.49	6.81	4.19

※ 2月の西鳥取は岸から採水したため、異常値とする。

表4 ノリ生産概況の経年変化

年度(平成)	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	前年比(H27/H26)
経営体数	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	1.00
持網数(千枚)	1.52	1.62	0.98	1.04	1.05	1.02	0.90	0.86	0.86	0.67	0.76	1.13
生産枚数(千枚)	527	211	164	47	302	296	292	360	343	258	154	0.60
共販枚数(万枚)	378	151	117	0	25	—	—	—	—	—	—	—
平均単価(円/枚)	5.41	6.63	5.44	—	6.56	—	—	—	—	—	—	—